

Z-70-A 簿記論〔第一問〕一解 答一

(黒丸数字は予想配点を示す。)

問 1

設問(1)	①	② 936,000	②	① 3,247,000
	③	① 138,000	④	① 211,000
設問(2)	⑤	① 845,000 円		
	⑥	① 25,000 円		
	⑦	① 1,550,000 円		
	⑧	① 1,538,000 円		
	⑨	① 386,000 円		
設問(3)	⑩	② 4,822,000		

問 2

設問(1)

①	① キ	②	① ケ	③	① シ
④	① ウ	⑤	① ア	⑥	① サ
A	① 30,187.5 (千円)		B	① 5,000 (千円)	
C	① 1,050 (千円)		D	① 1,350 (千円)	

設問(2)

①	① 560,000 千円	②	① 270,800 千円	③	① 2,100 千円
---	---------------------	---	---------------------	---	-------------------

予想ボーダーライン：20点～22点

Z-70-A 簿記論〔第二問〕一解 答一

問1

(1)	① 支店独立会計制度				
(2)	借 方		貸 方		
	勘定科目	金 額	勘定科目	金 額	
	① 現金預金 支店	2,140 20	未達現金	2,160	
(3)	①	① 6,090 円	(4)	①	① 1,453,100 円
	②	① 161,264 円		②	① 591,140 円
	③	① 731,264 円		③	② 137,000 円
	④	① 2,101 ドル		④	① 468,900 円
			⑤	② 108,000 円	
			⑥	① 7,984 円	

問2

(1)	①	② 21,276 円	②	① 14,875 円	③	① 8,510 円
(2)	①	収益の科目		金 額		
		① エ	① 8,000 円			
	②	費用の科目		金 額		
		① ウ	① 6,838 円			
③	資産の科目		金 額			
	① シ	① 22,200 円				
(3)	借 方		貸 方			
	勘定科目	金 額	勘定科目	金 額		
	① ク	8,000	シ イ	7,692 308		

予想ボーダーライン：11点～13点

Z-70-A 簿記論〔第三問〕一解 答一

(黒丸数字は予想配点を示す。)

(単位：円)

番号	金額	番号	金額
(1)	② 182,700	(21)	① 150,000
(2)	① 21,400,000	(22)	① 10,000
(3)	① 1,100,000	(23)	① 3,512,000
(4)	② 100,000	(24)	① 100,000
(5)	① 10,152,000	(25)	② 6,000,000
(6)	② 1,400,000	(26)	② 660,000
(7)	① 400	(27)	① 1,719,940
(8)	① 1,200,000	(28)	② 4,050,000
(9)	② 5,531,000	(29)	① 94,958
(10)	② 1,350,000	(30)	① 210,000
(11)	① 7,920,000	(31)	① 2,709,730
(12)	① 1,800,000	(32)	① 490,000
(13)	① 20,561,000	(33)	② 36,590
(14)	① 9,000	(34)	② 125,000
(15)	① 59,596,540	(35)	① 100,000
(16)	① 15,200,000	(36)	① 95,000
(17)	② 2,000,000	(37)	① 24,310
(18)	① 1,000	(38)	① 200
(19)	① 10,760	(39)	① 420,000
(20)	① 1,919,940		

予想ボーダーライン：28点～30点

簿記論【総評】

〔はじめに〕

昨年と同様、全体として分量・難易度とも少し抑えられている印象であり、合格ラインも、簿記論としては少し高めの水準になると予想される。第一問と第二問は本支店会計以外の部分でしっかり得点し、第三問は60%程度を得点できていれば理想的であろう。

〔第一問〕

問1は簿記一巡型のごく平易な推定問題であった。15分程度で完答も可能なレベルであり、取りこぼしたとしても2カ所までにとどめたい。

問2は純資産会計に関する基本的な問題であった。こちらも15分程度で解答できるが、剰余金の処分については判断に迷う可能性もあったため、それ以外の部分をしっかり得点できていればよいであろう。

予想ボーダーライン：20点～22点

〔第二問〕

問1は本支店会計（在外支店）の総合問題、問2はリース取引の個別問題で借手と貸手の双方の処理を問うものであった。外見の印象どおり問2の方が取り組みやすく、そちらを優先して解答すべきという判断ができたか否かがポイントとなろう。

10～15分程度で問2をしっかりと得点し、残りの時間で問1にまわり3～4カ所ほどを拾うことができれば、効率よく得点を積み重ねることができたはずである。

予想ボーダーライン：11点～13点

〔第三問〕

一般的な決算整理型の総合問題であった。電子記録債権やクレジット売掛金、レンタル固定資産など目新しい項目も散見されたが、全体としては標準的な難易度に収まっている印象である。

例年通りの戦略であるが、資料前半に見られる商品売買関連の処理は後回しにして、現金預金及び資料後半の個別的な決算整理事項から解き進め、現金、預金、有価証券、ソフトウェア、賞与引当金、退職給付引当金に関連する部分を中心に、18～20カ所程度を正答できていればよいであろう。

予想ボーダーライン（〔第三問〕）：28点～30点

〔合格ライン〕

簿記論の予想合格ボーダーライン：60点～64点（LECの想定する配点基準に基づく）

配点基準が変われば合格ラインも上下するので、おおよその目安として合格ラインを見るようにしていただきたい。